

台湾でなぜ神社の復興 が見られるのか？

中国・南京神社の社殿は なぜ壊されなかったのか？



会社の事務所として活用されている、中国・旧南京神社社殿



再建された、台湾・旧日本アルミ花蓮港工場構内神社

日時：2016. **2/27** (土) 13:00—17:30

会場：神奈川大学横浜キャンパス 1号館 308 会議室

[参加自由・事前申込不要]

講演

「台湾における日本時代の建築物を見る眼差し

—近年なぜ神社の復興が目立つのか」武知 正晃 (台湾首府大学)

「日本の敗戦後における旧南京神社の歩み

—なぜ南京で社殿が壊されなかったのか」李 百浩 (中国・東南大学建築学院)

コメント

コメンテーター／蔡 錦 堂 (国立台湾師範大学)

上水流 久彦 (県立広島大学)



再建された、台湾・旧台東鹿野村社



再建された、台湾・旧日本アルミ花蓮港工場構内神社



会社の事務所として活用されている、中国・旧南京神社拜殿



台湾・屏東県旧クスクス社基壇



上記基壇の上に復元された社殿

台湾でなぜ神社の復興が見られるのか？ 中国・南京神社の社殿はなぜ壊されなかったのか？

開催趣旨

近年、台湾においては神社を含めて、旧植民地時代の文化遺産の復元、活用、再建の動きが目覚ましい。一方、中国大陸においては東北部（旧満州）を除いて旧神社の社殿はほとんど残されていないが、なぜか南京においては旧南京神社の社務所、本殿、拝殿などが文化遺産として壊されずに活用されている。

こうした、旧海外神社（跡地）の現在の残存状況の多様性を、歴史学、建築学、文化人類学の立場から総合的に読み解く。

プログラム

開会挨拶／田上 繁（神奈川大学日本常民文化研究所所長）

趣旨説明／中島 三千男（神奈川大学非文字資料研究センター客員研究員）

総司会／津田 良樹（神奈川大学非文字資料研究センター研究員）

講演

「台湾における日本時代の建築物を見る眼差し

—近年なぜ神社の復興が目立つのか」武知 正晃（台湾首都大学）

「日本の敗戦後における旧南京神社の歩み

—なぜ南京で社殿が壊されなかったのか」李 百浩（中国・東南大学建築学院）

コメント

コメンテーター／蔡 錦 堂（国立台湾師範大学）

上水流 久彦（県立広島大学）

参加自由・事前申込不要

問い合わせ先/神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター事務局
TEL: 045-481-5661 (内線 3532) FAX: 045-491-0659
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/> <http://www.kanagawa-u.ac.jp/>



交通アクセス

電車：東急東横線「白楽駅」下車 徒歩13分

バス：横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用（東神奈川駅西口経由）

1 番乗場 36系統 菅田町または緑車庫行「神奈川大学入口」下車 徒歩5分

1 番乗場 82系統 八反橋または神大寺入口行「神奈川大学入口」下車 徒歩5分

※駐車場がございませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください。